

何ぞやシリーズ 第37回



食事開始の場面でよく遭遇する「なかなか嚥下できない」「食事に時間がかかる」という悩み、原因はさまざまですが、果たして正しいポジショニングはできていますか？ポジショニングで食べる喜びを伝える「POTTプログラム」って何ぞや？

ぽっと

「POTTプログラム」

【PO】ポジショニングで（T）食べるよるこびを（T）伝えるプログラム

って何ぞや？



作 画：上田みう 制 作：マンガエッダ・エンターテインメント

食事時のポジショニング教育プログラム

POTTプログラムは、ただポジショニングをするのではなく、摂食予防や自立支援によって「食べるよるこび」を引き出し、QOLの向上を目的とする教育プログラムのこと。「ポジショニングで（P）O、食べるよるこびを（T）伝える」（「POTTプログラム」の愛称）で、誰もが気軽に実践できるようにという思いが込められている。よるこびが摂食や嚥下を阻害し、POTTプログラムを進める指導者も育成して、企業と連携し、折り返しできる専用のツールやリクレーション、バスタオルなど、食事ケア用品の開発も積極的に行っている。

「工夫しながら実践しているけれど、あらためて学んだほうがよいですか？」

「そうですね、これまで看護の教科書にも、食事時のポジショニングについては詳しく載っていないからね。日本は超高齢社会が進行して、摂食嚥下障害のある人が増加した。それに伴って、摂食嚥下障害の治療や

リハビリは進んだが、食事介助におけるポジショニングは、看護教育や技術開発、研究は十分ではなかったんだ。ね？看護部長。

適切なポジショニングがもたらす効果

たしかに、嚥下や摂食予防のポジショニングに比べて、嚥下とポジショニングの関係は具体的に学ぶ機会がなかったような気がするね。

「何が正しいのかを知らないわよね？」

「実際の現場でも、患者さんの不良姿勢に気づけなかったり、介助者の位置が逆だったりすることが珍しくない。適切なポジショニングができなければ、誤嚥や窒息になり、姿勢が崩れて食事が減り、その結果食事が減少し、栄養状態が悪くなる、というような患者さんへの不利が生じてしまう。」

「でも、適切なポジショニングが提供できれば、誤嚥性肺炎の予防や栄養状態の改善、食行動の自立などの効果が期待できるでしょ。食事時間も短縮されるから業務負

担が軽減する効果もあると思うわ。患者さんに合わせた食事介助ができて、自分たちの負担も減っていくというわけ。

伝えて掲げてチームで行う

でも、スタッフ一人だけでは患者さんのポジショニングを教えにくいのは難しいですね。

「そうですね、看護ケアはチームで行うものだから、一人だけができても効果的なケアにはつながらないわね。そこでPOTTプログラムは、技術と教育をセットにして構成しているの。研修では模範にも

とづいた技術を基本から学び、体験的に学習する。個人の技術向上をPOTTスキルチェック（POTT）で確認し、その人が次の人へ技術を伝える。そして食事ケアに関するスタッフ全員が習得し、現場に活用が定着していく。教える人と学ぶ人が相互成長できる仕組みになっているのよ。」

「Eビデンスにもとづいたケアもとくん、正しいポジショニングを広めて、みんなが患者さんに安全に美味しく食べるよるこびを伝えられるようにしたいよ！」

「さすが看護部長！」

（つづく）

POTTスキルチェック（ベッド用基礎）

※正しい姿勢、姿勢、呼吸器に、呼吸器をいれよう

1. ポジショニング準備と呼吸器の設置
 - ・ベッドの高さを、片膝の高さと同様に設定
 - ・両肘をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
 - ・両腕をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
2. ベッドを水平にし、体の向きを確認する
 - ・ベッド頭部（足）を15度上げ
 - ・両肘をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
 - ・両腕をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
3. 頭部を軽く固定させる
 - ・片と片の間に枕を2枚入れる
 - ・両肘をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
 - ・両腕をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
4. 肩と肘を安定させ、アームを支える
 - ・両肘をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
 - ・アームの両側を安定させる
 - ・アームの両側を安定させる
5. 食事を見るように姿勢、呼吸器を調整する
 - ・片肘は床面に平行に、両手で肘を90度に曲げる
 - ・片肘は床面に平行に、両手で肘を90度に曲げる
6. 食事の観察をする
 - ・両肘をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
 - ・両腕をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
7. 食事の観察をする
 - ・両肘をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる
 - ・両腕をベッド中央に伸ばし、肘を90度に曲げる

評価
35点以上 合格！
15～34点 5/5点！
14点以下 不合格！

※：研修で使用する POTT スキルチェック
※POTTプログラムホームページよりダウンロード可（業務用研修コース用もあ）
http://pott-program.jp/qa/qa_check_pott.pdf

監修：日本赤十字広島看護大学 看護教授 POTTプロジェクト代表 沼田麻子先生
監修：福岡県立看護大学 看護学部の教授 沼田麻子先生（POTTプログラムの開発者）
監修：福岡県立看護大学 看護学部の教授 沼田麻子先生（POTTプログラムの開発者）
監修：福岡県立看護大学 看護学部の教授 沼田麻子先生（POTTプログラムの開発者）